和歌（古今和歌集）　＊＊

次の歌について、後の問いに答えなさい。［50点］

春立ちける日詠める

A ①袖ひちてむすびし水の凍れるを春立つ今日の　風や②とくらむ　（巻一・春上）　紀　友則

桜の花の散るを詠める

B ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の　散るアらむ　（巻二・春下）　よみ人知らず

題知らず

C 五月待つ花橘の香をかげば③昔の人の袖の香ぞする　（巻三・夏）　藤原敏行

秋立つ日、詠める

D 秋来ぬイと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれ　（ぬa）　（巻四・秋上）　藤原敏行

E ちはやぶる神代も聞かず竜田川から紅に水くくるとは　（巻五・秋下）　在原業平

冬の歌とて詠める

F 山里は冬ぞ寂しさまさり　（けりb）　人目も草もかれぬと思へば　（巻六・冬）　源　宗于

題知らず

G 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば④覚めざらましを　（巻十二・恋二）　小野小町

五節の舞姫を見て詠める

H 天つ風雲の通ひ路⑤吹きとぢよ乙女の姿しばしとどめむ　（巻十七・雑上）　良岑宗貞

問一　傍線部①はいつのことか。季節を答えなさい。

問二　傍線部②は何をといたのか。答えなさい。

問三　二重傍線部ア、イの助動詞の意味と活用を答えなさい。

問四　傍線部③はどのような人か。答えなさい。

問五　a（ぬ）、b（けり）を適切な形に変えなさい。

問六　Eの歌について述べた次の文章の1～7に入る語句を、後ろの語群から選び、記号で答えなさい。

この歌は（　1　）の一人である在原業平によって詠まれた。歌の区切れは（　2　）区切れである。「ちはやぶる」は（　3　）にかかる（　4　）。竜田川に紅葉が浮かび赤く染まった様子をくくり染めに（　5　）いる。また、（　6　）によって、それは（　7　）がしたことであると言い、鮮やかな川面の様子を複数の技法を用いて巧みに詠んでいる。

ア	七賢人	イ	蕉門十哲	ウ	六歌仙	エ	初
オ	二	カ	三	キ	四	ク	神
ケ	竜田川	コ	水	サ	序詞	シ	枕詞
ス	掛詞	セ	染め上げて	ソ	すくって	タ	見立てて
チ	折句	ツ	本歌取り	テ	体言止め	ト	擬人法

問七　Fの歌から、(1)掛詞を抜き出し、(2)掛けている内容を漢字を使用して説明しなさい。

問八　傍線部④と作者が思った理由を答えなさい。

問九　傍線部⑤と作者が命じた理由を答えなさい。

問十　Aの歌は、古今和歌集の撰者の一人で、古今和歌集の仮名序を書いた人物の和歌である。作者名を漢字で答えなさい。

問 十	問 九	問 八	問 七	問 六	問 四	問 三	問 一
			(1)	1		ア	
				2			
				3			問 二
				4		・	
			(2)	5	問 五		
					a		
				6			
				7		イ	
					b		
						・	

学 年
組
番 号
氏 名
得 点

和歌（古今和歌集）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　古今和歌集についての基礎的事項、和歌についての語意・解釈・文学史などの幅広く深い理解度を問う。特に語句の解釈を正確にさせ、内容読解についての確実な理解を必要とする。

☆解答例と配点

問一　夏　〈3点〉

問二　水が凍っていたのをといた。　〈3点〉

問三　**ア**　現在の原因推量・連体形　**イ**　完了・終止形　〈3点×2〉

問四　昔の恋人　〈3点〉

問五　**a**　ぬる　**b**　ける　〈2点×2〉

問六　**1　ウ　2　オ　3　ク　4　シ　5　タ　6　ト　7　ケ**　〈2点×7〉

問七　(1)　かれ　(2)　「枯れ」と「離れ」　〈2点×2〉

問八　現実で会えない恋しい人にせめて夢の中でだけでも会っていたいと思ったから。　〈5点〉

問九　美しい少女たちの姿をもうしばらく見ていたいと思ったから。　〈5点〉

問十　紀貫之　〈3点〉

計50点